

平成26年10月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

平成26年秋の特別展「甦る鉄剣」の開催

博物館 展示担当 井上尚明

昭和43年、行田市埼玉古墳群の稲荷山古墳礫塚から鏡や挂甲・馬具類と刀剣類等の遺物が出土し、このうちの1本の剣から115文字の銘文が発見されました。「金錯銘鉄剣」呼ばれることになったこの鉄剣を含め、礫塚から出土した遺物は一括して昭和58年に国宝指定され、現在さきたま史跡の博物館に展示されています。この鉄剣を、現代の刀工達が復元しようと作業を始めたのは平成19年2月でした。試行錯誤を繰り返し、約7年の歳月をかけて鉄剣は復元され、平成25年に埼玉県に寄贈されたことを受けて、復元された鉄剣と鉄剣の制作や同時代の資料を紹介した展覧会を開催することになりました。

展示の導入部では、刀工達の使用した道具や刀剣の制作工程などとともに、絵巻や絵馬などに描かれた刀鍛冶師・研師・象嵌師などの姿を紹介します。また、埼玉県出土の飾り大刀を一堂に公開して、普段目にする事の少ない、古墳時代の刀剣にも目を向けてもらえる構成としました。金錯銘鉄剣の銘文には、大王の護衛人を意味する「杖刀人」が登場しますが、武人埴輪などから剣を身につけた古墳時代の武人の姿や、大刀・盾などを象った埴輪を紹介します。熊谷市上中条出土の重要文化財武装男子像埴輪も久しぶりに里帰りします。さらに、甲冑類というと戦国時代を連想するかと思いますが、古墳時代にも多様な冑や短甲などが出土しており、全身鉄の鎧を身にまとった軍団がいたのです。大阪府豊中市の大塚古墳や、滋賀県栗東町新開1号墳出土の重要文化財の冑・短甲・鉄剣なども展示されます。

最後のコーナーでは、稲荷山古墳のある埼玉古墳群を分かりやすく学べるように、古写真や最先端技術で実施している測量成果等を紹介し、過去と現在の埼玉古墳群の姿を多くの方に知っていただける展示としました。3Dプリンターで製作した触れる鉄剣や稲荷山古墳のCGもありますので、象嵌された文字の感触などを知っていただける機会も用意しました。

今回の展覧会では、復元された鉄剣をテーマにして、考古資料を中心にした展示になりましたが、導入展示で紹介したように、民俗資料や歴史資料と関連付けた展示や、復元・制作技法に主眼を置いた科学的・技術的な分野を取り入れた展覧会も可能です。復元鉄剣は当館で保存・管理をしますので、今後の新たな活用方法の検討も必要となるでしょう。

友の会トピックス

- ◎これからのイベントなど <博物館主催のイベントについては、同封の博物館のチラシをご覧ください>
- 10月18日(土) 友の会・日本の祭り研究クラブ 「川越まつり」東上線・川越駅改札出口集合・午後3時 交通費・夕食代・保険料50円を持参 夜の祭りは提灯明かりがともり、幻想的な山車の様子と囃子が入り乱れ、「曳っかわせ」が最大のみどころ。申込み先 0493-54-0401 (携帯090-2259-1673) 元木(もとき) 孝
- 10月23日(木) 友の会主催・プレミアム講座「古墳時代の武器・武具」
講師：中山浩彦氏(博物館・展示担当主任学芸員)
1時半～3時 講座終了後の展示ご観覧には、当会会員証のご持参が便利です。参加申込みはハガキにイベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、10月16日(木)までに、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。会員限定ですが、ご家族・お友達にご参加いただけます。
- 10月24日(金) 友の会・浮世絵同好会 「名所百景を歩く・第3回・虎ノ門・芝」
JR新橋駅 烏森口改札出口集合 午前10時 午後3時解散予定
JR新橋駅—虎ノ門ヒルズ—愛宕神社—芝公園—増上寺—大門—JR浜松町駅
資料代100円程度 申込み先 FAX048-470-2758 つくい
Eメール (pu8n-tki@asahi-net.or.jp) や当会ホームページの「申込みフォーム」からも申込みます。

◎当会へのご入会をお誘いください

- 9月からの年会費は3月末までで、1000円となっています。
- お気軽な金額ですし、おためし入会もしていただけるか～と思います。
- ぜひ、このチャンスをお使いいただくよう、お友達、お知り合いにご入会のおすすめをお願いいたします。

◎当会のスタッフになってください

- 当会には、専任のスタッフはおりません。
- 会員の方々のボランティア精神だけを頼りにして運営されています。
(たとえば、見学会の場合も、会員の方々と同じ金額の参加費を払って参加していただいています)
- 他の会員のために働いていただくか、他の会員に働いてもらうか? もちろん、遠距離の方、まだ働いておられる方、お身体不調の方などに、ご無理を強いるつもりはありません。そういう方々は、胸をはって奉仕をお受けください。
- しかし、他人のために奉仕できる方が、「自分は奉仕を受ける立場だ」と考えないように、お願いいたします。そんなお考えの方はおられないと思いますが、おられたとしたら、それは悲しい方ですね。
- できることなら、友の会は、お互いに奉仕し、奉仕されることでなりたち、その上で博物館を応援する団体でありたいですね。
- そういうことで、ぜひ、あなたにも当会のスタッフになっていただきたいと思います。
- とりあえずは、土日祝に、友の会に受付カウンターのお手伝いに、手をあげていただきたいと思います。ぜひ、カウンターにお声をおかけください。お待ちしております。

円空仏

= あらためてその魅力を探る =

2011年秋の特別展では、埼玉の円空仏の多彩な表情をまぢかにすることができました。その他にも当館と友の会を通じて円空仏に親しむ機会を持たれた方も多いことでしょう。本年度も第4室で始まる円空仏の展示を機に、円空の人となりや円空仏の特徴をあらためて探ってみたいと思います。

講師の西口由子さんは日本美術史を専攻され、円空仏を初め、太平記絵巻などの研究経験を積まれています。本年度の展示では、三十六歌仙額や五大明王像も担当されています。

講師 西口由子氏 当館展示担当学芸主幹

とき 平成26年1月20日(木)午後 1時半～3時

ところ 当館講堂

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、11月13日(木)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

～紅葉の季節、中房総の名所をご一緒に訪ねましょう～

古墳時代『長柄横穴(墓)群』と 桃山時代再建『笠森観音』 房総の小江戸『大多喜城下町』

<見学コース>

- ・全国でもめずらしい玄室(遺体を置いた場所)が入口より一段高い「国指定史跡 長柄横穴群」と「資料館」(横穴墓の内部見学に、懐中電灯を持参すると役立ちます。)
- ・遙か房総の山並と九十九里の海が四方に一望できる山上の岩の上に聳え建つ「坂東第31番札所笠森寺」
- ・初代城主 本多忠勝の大多喜城(館内は「千葉県立中央博物館大多喜城分館」と旧城下町散策
- ・昼食場所：長柄町「生命の森」内の『レストラン・ブローニュ』にてバイキング
- ・往路は湾岸幕張経由。帰路は東京湾アクアライン経由で、『潮ほたる』へ立ち寄り、休憩とお買い物
- ・横穴墓群の見学(バス降車場所から現地まで15～20分歩きます)、笠森寺の石段の上り下り、大多喜の旧城下散策など、歩く場所が多いので、歩きやすい服装と靴でお出かけください。

日 時

平成26年 11月21日(金)

出 発

午前7時30分 (時間厳守願います)

大宮駅西口・ソニックシティ西側 大型バス待合せ (友の会黄旗を掲示)

参加費

6,000円 (当日徴収いたします)

<ご参加のお申込みなど>

申込方法：往復はがきに、「11月21日の房総見学会」申込、住所、氏名、年齢、電話番号(できれば携帯電話番号)、会員番号を明記してください。(年齢の申告により、大多喜城の入館料が無料になるほか、レストランの料金が割引になりますので、必ず年齢をご記入ください。)

申込先：〒330-0852 さいたま市大宮区大成町3丁目503-4 高瀬敏男 宛
電話 048-652-7324 (または下記携帯へ)

締切日：10月31日(金) **バス定員** 48人(先着順とさせていただきます。)

その他：会員限定ですが、ご家族・友人は参加できます。なお、ご夫婦・友人などで同席を希望する方、または、集合場所地図をご要望される方は、葉書にその旨を明記してください。

緊急連絡先

岩井隆興 090-7170-3294

高瀬敏男 090-9104-2979

平成26年11月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

歴史を好きになれば、現場へ行きたくなる～

理事 西島 孝 (越谷市)

私は、父に小さいころから、よく時代劇に連れていってもらいました。これが、私が歴史が好きになった、まず第一の原因かもしれません。

先日は、三河、奥三河、天竜の三つの城址をめぐるしてきました。

駿河と三河をつなぐ高天神城～険しい要害の地に築かれた、この城は、あの武田信玄も落とすことができなかった。そして、信玄亡きあと、勝頼が、この城を落として、自信をつけていったのです。

信濃につながる長篠城～寒狭、宇連川の合流地点の断崖絶壁に立つ、この城も武田滅亡となった天然の要害。

勝頼は、この城を攻略しながら、織田信長、徳川家康の連合軍との設楽原の決戦に向かっていった。

織田軍は、柵を設けて、いわゆる三段撃ちの策で待ち構えていた。

勝頼は、自慢の騎馬隊を、この不利な地形のもとで、ただただ、策もなく突撃させたのだろうか。

勝頼は、当主としての信頼もまだ受けないときに、ただ、戦うしかなかったのだろうか。

信玄没後10年で、名門武田家は滅びてしまった。

最後に寄ったのは天竜二俣城。これも天竜川の断崖に立っている。

ここは、家康の嫡子である信康の最後の地であった。信長から武田と通じていたかを疑われ、母・築山御前と共に切腹を申しつけられた。

悲しい物語である。

信長が信康の才能を訝ったためとも言われている。

そんな歴史上の場所を、物語を思い出しながら、あるいは、その場での言い伝えを教えてもらいながら、歩くのは何と楽しいことか。

これからも、いろいろな史跡をめぐり、自分なりに、歴史を確かめたい。

今年は、甲午歳総開帳の秩父34ヶ所観音霊場も駆け足で巡礼し、また出雲大社や伊勢神宮も参拝してきました。神社仏閣には必ず、その歴史があります。その現場です。それを楽しみながら、ご利益もいただける～歴史好きの醍醐味でしょう。父が連れていってくれた映画館には、一生ものの幸せが上映されていました。

友の会トピックス

◎今後のイベントスケジュール

- 11月20日(木) 会員限定・プレミアム講座「円空仏～あらためてその魅力を探る～」
講師 西口由子・学芸主幹 お申込み受付中
- 11月21日(金) 友の会見学会「房総の小江戸・大多喜」 お申込みを締め切りました
- 12月3日(水) 会員限定・プレミアム講座「竹細工～みんなが作って・使っていたもの～」
講師 服部 武・主任学芸員 お申込み開始
- 12月8日(月) 友の会・お祭り研究クラブ「中山神社鎮火祭」 詳細別ページ
- 12月12日(金) 友の会・浮世絵同好会「大江戸百景をあるく・日本橋方面」 詳細当ページ
- 12月14日(日) 博物館と共催講演会「お正月の民俗学」
講師 久保田裕道・東京文化財研究所・無形民俗文化財研究室長 お申込み開始
- 1月 博物館と共催講演会を予定
- 2月22日(日) 友の会見学会「比企郡の石仏めぐり～石仏見学の初歩～」 (詳細未定)

◎会員増加にご協力をお願いいたします

いま、12月末まで、新しくご入会される方の年会費(3月末まで)は1000円です。あなたのまわりの博物館お好きの方に、ご入会をおすすめいただきますよう、お願いいたします。なお、1月から3月までのご入会の方の年会費は4月からの分に充当させていただきますので、4月まで無料という見方もできます。こちらもおトクです。ぜひ、会員増加にご協力をお願い申し上げます。

『大江戸名所百景を歩く』(第4回 日本橋方面)

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 浮世絵同好会

『大江戸名所百景を歩く』第4回は、いよいよ江戸の中心・日本橋、江戸橋から商業地として繁栄した駿河町、伝馬町まで、散策しながら浮世絵の舞台を探します。人形町の名店街や吉田松陰終焉の地小伝馬町牢獄跡も予定。長距離ではありませんが歩きますのでご準備を。

- ・第1景 日本橋雪晴
- ・第43景 日本橋江戸ばし
- ・第46景 鎧の渡小網町
- ・第44景 日本橋通一丁目略図
- ・第7景 大てんま町木綿店
- ・第8景 する賀てふ

<記>

日時：2014(平成26)年12月12日(金) 小雨なら決行

集合：JR神田駅 南口 改札出口 午前10時

(改札を出たところの「友の会の旗」が目印です)

主催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 浮世絵同好会

内容：以下のコースを順番に散策(15時解散予定。途中暫時休憩)

JR神田駅～駿河町～日本橋～江戸橋～人形町～大伝馬町～小伝馬町～JR神田駅

申込：(以下のいずれかで事前申込をお願いします)

①FAX：048-470-2758 ②Eメール：pu8n-tki@asahi-net.or.jp

③「友の会ホームページ」の「申込フォーム」より送信

氏名・会員番号・連絡先電話などを明記 問合せ：090-1990-4807(つくい) (資料代：200円程度)



景色は違えど、こういう女性が歩いているかも…

『第7景 大てんま町木綿店』

竹細工

= みんなが作って、使っていたもの =

^{ざる かご}
箒や籠などの竹細工は、生活用品として埼玉県内も含め各地で作られ、名産品となるものも現れました。これらの道具は、職人だけではなく、下級武士や農家の副業として江戸時代から明治にかけて広く作られています。また、明治以降は、近代化政策のもとで石炭運搬用の大型籠や使い捨てタイプの籠に用途が拡大し、生産方法も拡がりましたが、近年は段ボールやプラスチック製に取って代わられました。庶民の生活に密着した竹細工の盛衰を画像や現物とともに紹介していただきます。

^{たける}
講師の服部武さんは日本民俗学を専攻され、近世から近現代の竹細工の変容の研究をされています。また、今年度は昭和の原っぱイベントやキッズクルー等の担当をされています。

講師 ^{たける} 服部武氏 当館学習支援担当主任学芸員

とき 平成26年12月3日(水)午後1時半～3時

ところ 当館講堂

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、11月26日(水)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

お正月の民俗学

もういくつ寝ると、お正月？ 楽しいお正月がやってきます。でも、お正月には「なぜお目出度いのか？」「なぜおせち料理を食べるのか」「なぜ祝い箸でいただくのか」を始め、いろいろと楽しい「なぜ」がいっぱい。その「なぜ」をいっぱい、説明いただいて、こんどのお正月を生涯でイチバン楽しいお正月にしてください。

講師 久保田裕道先生

東京文化財研究所 無形民俗文化財研究室長

とき 平成26年12月14日(日)

午後1時30分～3時

場所 当館講堂 (東武野田線・大宮公園駅・下車5分)

入場無料

ご参加のお申込みは、往復ハガキにお名前・ご住所・お電話番号・会員の方は会員番号・イベント名を明記、返信面のお名前・ご住所をご記入のうえ、12月11日(木)必着、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名オーバーの場合は、その時点で締め切らせていただきます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

2014年度	埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 「日本の祭り研究クラブ」
第10回 お祭り見学会のお知らせ(参加自由)	
《名称》	『中山神社鎮火祭』 (さいたま市見沼区)
《期日》	平成26年 12月 8日(月)14時～ 雨天決行
《集合》	JR「大宮駅」まめの木 午後12時30分(現地集合可能) (その後、大12系統中川循環バス乗車し、中山神社前下車)
《費用》	★交通費(電車・バス), 保険代50円等 昼食は各自
《持物等》	★歩き易い靴及び服装・帽子・飲物・カメラ等
《申込み》	★下記の連絡先までお願い致します。
<p>★中山神社の概略</p> <ul style="list-style-type: none"> ●社伝によると、創建は人皇10代崇神天皇の御代2年と伝えられ、天正19年(1591)11月に徳川家康から社領15石の御朱印を賜った格式のある神社です。 ●毎年12月8日に行われた鎮火祭は有名で、江戸時代紀州の殿様が鷹狩りの際、ご覧になった言われている。 焚き終わった炭火の上を素足で渡った後、「鎮火祭御祈祷ノ礼」をいただき、無病息災及び火難がないよう祈願するものである。 ●この鎮火祭は、かつて大宮氷川神社でもおこなわれていたが、340年ほど前に取りやめ、今の「大湯祭」に変わったと言われ、大宮氷川神社の古い祭りを今に残す貴重なお祭りである。 	
連絡先：元木孝 TEL：0493-54-0401 (携帯090-2259-1673)	
★次回予定27年1月17日(土)「辻切り」：(千葉県市川市国府台)	

平成26年12月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

「自由のさかすき」が語るもの

展示担当学芸員 佐藤 美 弥

いよいよ明るく1月2日（金）から、企画展「埼玉の自由民権」がスタートします。自由民権運動をテーマとした展覧会としては当館ではじめてのものです。

みなさまご存じのように、自由民権運動は、明治維新からまもなく、薩摩、長州出身の士族など限られた人々によって行なわれていた政治を批判し、憲法制定、国会開設、基本的人権の尊重、地租軽減などを求め、全国的に展開された政治・社会運動です。板垣退助と自由党、大隈重信と立憲改進黨などを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

それらの著名な人物や政党だけでなく、全国各地で運動を展開しています。埼玉県もその例に漏れません。川越、忍、岩槻の三藩の旧士族や、江戸時代には村役人を担ったような豪農層が民権結社と呼ばれるグループをつくり、運動の機運を盛り上げました。また全国的に運動が激化した時期には、自由党の運動に影響を受け、秩父地域で経済的困窮を訴えた、近代最大の農民蜂起である秩父事件が発生しています。

本年度は、本県最初期の民権結社である熊谷の七名社の結成（明治8年2月）から140年、秩父事件の発生（明治17年10月）から130年という節目の年です。ぜひこの機会に現在の立憲民主主義の源流としての自由民権運動の歴史をふりかえっていただければと思います。

企画展では、「民撰議院設立建白書」（複製）や「五日市憲法」（都指定）そして、秩父事件を記録した行政文書（「埼玉県行政文書」国重文）といった文字資料のほか、自由民権運動に関するモノ資料も展示します。そのなかから1点、当館が所蔵する「記念盃（自由のさかすき）」をご紹介します。この「自由のさかすき」は当館が開館する前に現在の当館の敷地にあった、埼玉県文化会館から引き継いだ資料に含まれていたものです。白い磁器製のさかすきで、中央に金色で「自由」の文字と光線が描かれています。当時の人々にとっての「自由」の尊さが感じられるようなデザインです。

これとよく似た資料として、上記の「五日市憲法」が発見された、東京都あきる野市の深澤家の土蔵から発見されたものがよく知られています。自由民権運動を象徴する資料として、東京都町田市立自由民権資料館や東京都江戸東京博物館ではレプリカが展示されています。私はこれまで深澤家以外の「自由のさかすき」をみたことがありませんでした。その意味で、当館に「自由のさかすき」もまた自由民権運動に関係の深い、非常に貴重な資料であると考えています。これまでは「記念盃」としてその他のさかすきと一緒にされていたので、なかなか注目されてこなかったようです。

さらに当館の「自由のさかすき」の特徴を二つあげると、第一に、年代がはっきりしている点。裏面に「両郡倶楽部」と書かれ、明治23年（1890）年に国会開設を前に新座、北足立両郡の自由党系の民権家がつくった団体が製作したものであることがわかります。第二に、深澤家の「自由のさかすき」には放射線と「自由」の文字のみが描かれているのに対して、当館のものには、「自由」の文字の上に、交差した日章旗が描かれている点です。藩閥による有司専制を批判して、立憲民主主義をめざした、つまり「民権」の拡張を重視した自由民権運動にとって、外国との不平等条約を改正し、民族の対外的自立をめざす「国権」の確立もまた重要な課題であったことを如実に示すものです。

「自由のさかすき」は小さな資料ですが、こうした興味深い事実を語ります。このほか約190点の資料を展示する予定ですので、じっくりご覧ください。幸いです。

友の会トピックス

◎今後のイベントスケジュール

○12月14日(日) 博物館と共催講演会「お正月の民俗学」

講師 久保田裕道・東京文化財研究所・無形民俗文化財研究室長 お申込み受付中

○1月12日(月・祭) 博物館と共催講演会「縄文海進の海そしてヒトの生活」

講師 一木絵理・土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場 お申込み受付開始

○1月17日(土) 日本の祭り研究クラブ「市川市の辻切り」

お申込み受付開始

○2月22日(日) 友の会見学会「比企郡の石仏めぐり～石仏見学の初歩～」(詳細未定)

◎会員増加にご協力をお願いいたします

12月末まで、新しくご入会される方の年会費(3月末まで)は1000円です。あなたのまわりの博物館お好きの方に、ご入会をおすすめいただきますよう、お願いいたします。

なお、1月から3月までのご入会の方の年会費は4月からの分に充当させていただきますので、4月まで無料という見方もできます。こちらもおトク。ぜひ、ご入会のおすすめにお使ください。

◎会員をふやすということは、博物館の応援団である、私たち友の会の至上命題です。

☆今まで成長してきた友の会の成長が止まれば、「ああ、博物館の人気もこんなものか?」と思われかねない恐れがあります。

☆逆に会員が増えてゆけば、「ああ、博物館の市場はまだまだあるな～」という見方になるでしょう。

☆博物館は本来は社会教育機関であり、「県民の方に楽しみながら歴史を勉強していただく」ためのものとして、目先の数字などにこだわっていただくべきではないのですが、現実には「来館者数」とか「有料入場者数」とかの数字がキビシイ評価対象になっているようです。

☆東京の博物館のように、国際的なものや国内でも人気の高いものを借りてこられるわけではないところ、そして予算も潤沢に与えられないところでは、ただ「一生懸命」な努力で数字を稼ぐしかありません。

☆応援団であるといっても、友の会会員が毎日、博物館へ通うわけにもゆきません。

☆1人のヘビーユーザーの貢献度に頼るよりも、数多くの会員が年に1回でも2回でも博物館へ足を運んでいただいての積み重ねで、博物館の数字をかさ上げしたいと思います。

☆まだまだ、大宮公園の博物館に行ったことのない方も圧倒的に沢山おられます。まずは、お友達、ご家族に、「大宮公園の博物館に行ったことある?」と一声、何かのついでにお話いただいたらどうでしょうか。へーえ、そんなのがあるの? という方もおられるはずです。

☆「私、その友の会の会員にもなっているのよ!」とおっしゃっていただければ、「私も入ろうかしら?」となることも多いと思います。そうなれば、講演会や見学会をご一緒に楽しんでいただくことも、できるではありませんか。

☆ぜひ、お声かけをお願いいたします。タイミングとしては、ちょうど良い時期です。よろしくお願いたします。友の会のチラシもご活用ください。お手元になれば、友の会にご請求ください。お送りさせていただきます。どうぞ、どうぞ、よろしくお願申し上げます。

いろいろ
囲炉裏をかこんで ～

= 懐かしい埼玉の農家の暮らし:

半世紀前の農業と暮らしはこんなだった =

1月からリニューアルされる民俗展示室（第10室）では、農業と人々の暮らしについて、今はもう使われなくなった道具や今も続く埼玉の土地柄を表す一面など、多面的なようすを見ることができます。

米、麦、蚕、野菜を育ててきた北武蔵・埼玉の農業とはどんなものだったのか？ 機械化が進む前の農具や、囲炉裏を中心とした農家の姿を通じて、昭和30年代の埼玉の農業を生き生きと甦らせてくれています。講座では、懐かしい、そんな時代のお話をおうかがいしましょう。展示室での分かりやすい実地説明もあります。

（会員証をお忘れなく）

講師の山田実さんは日本民俗学を専攻、現在は民俗展示室のご担当。また、長年にわたり、三匹獅子舞の研究もされています。

講師 山田実氏 当館展示担当主任専門員兼学芸員

とき 平成27年 1月13日(火)午後 1時半～3時

ところ 当館講堂

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、1月6日(火)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

縄文海進の海 そしてヒトの生活

約1万5千年前、急激な気候の温暖化がはじまった。そして、極地の氷がとけ、海面が上昇し、海が陸地に進出した。それが縄文海進。その証拠が、いま、海と関係ない埼玉県などにある貝塚。そのトキ、海は？ ヒトの暮らしは？博物館の「埼玉の海」という展示を、今回は一木先生の、最新データを踏まえたお話で確認してください。

講師 一木絵理 (ひとき えり) 先生

(土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場)

日時 平成27年1月12日 (月・祭)

場所 当館講堂 (野田線・大宮公園駅下車5分)

入場無料

ご参加のお申込みは、往復ハガキにお名前・ご住所・お電話番号・会員の方は会員番号・イベント名を明記、返信面のお名前・ご住所をご記入のうえ、1月8日(木)必着、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名超の場合は、その時点で締切ります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

2015年	埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 「日本の祭り研究クラブ」
第11回 お祭り見学会のお知らせ(参加自由)	
《名称》	『辻切り』（千葉県市川市国府台） (終了後、里見公園・下総国分寺・国分尼寺跡等散策予定)
《期日》	平成27年1月17日(土)9時～12時 小雨決行
《集合》	J R「市川駅」改札出口 午前9時00分 (その後、松戸駅行バス乗車し、国立病院下車徒歩10分)
《費用》	★交通費(電車・バス), 昼食代, 保険代50円等
《持物等》	★歩き易い靴及び服装・帽子・飲物・カメラ等
《申込み》	★下記の連絡先までお願い致します。
<p>★「辻切り」の概略（天満宮神社境内で実施します）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●辻切りは、悪霊や病気が村に入るのを防ぐための民俗行事です。各村の出入口にあたる四隅の辻を霊力によって遮断することからこの名がつけました。 ●遮断する方法は、千葉県の南部では、注連縄を道に張る方法が多く、北部ではワラで大蛇を作ってその呪力によって追い払う方法がとられています。 ●今では、昔の姿を伝えるのは、国府台の辻切りだけとなりました。保存会によって行事が継承されており、福の大蛇作りは、毎年、1月17日に各自が持ち寄った藁で2mほどの大蛇を4体作り、お神酒を飲ませて魂入れをしてから、町の東西南北“四隅”にある木に結び付けます。 ●こうして、大蛇は翌年まで風雨にさらされながら、町内の安全のために眼を光らせます。 	
連絡先：元木孝 TEL：0493-54-0401 (携帯090-2259-1673)	
★次回予定5月17日(日)「日光東照宮春季例大祭」：(栃木県日光市)	

第8回鎌倉街道・中道を訪ねて（友の会古道探索倶楽部）

今回は、4月頃に前回の続きの幸手から権現堂方面を計画中です。桜が観られるといいですね。前回との間があいてしまいますので、その間に、鎌倉街道上道、中道、下道以外の古道探索を計画しています。詳細は次号以降に、ご案内いたします。今後ともよろしく願いいたします。

「JUNO」100号に思う

元館長 高橋 一 夫

手元に平成18年10月10日発行の「JUNO」創刊号がある。館長だった私が「少年時代・考古学・博物館」と題し、博物館再編に伴う「ゆめ体験ひろば」について記している。次に「仏像、その見方、楽しみ方」講演会のアンケート結果、「あなたの手帳に友の会のスケジュールをご記入ください！」という洒落た題で、今後の友の会限定の諸行事が載っており、最後の4ページ目には平成19年1月から3月のイベント予定で、①「県内の前方後方墳を全部見る」というバス見学会、②「展示物を読み下す」、③バスでの「発掘現場・特別見学会」が告知されている。いずれも館職員の解説付き、とある。改めて友の会ニュースを見て、発足当初から全力走行であったことを再認識した。それが今もって継続して精力的に活動していることに感服する。当然、役員さんの下支えがあつてのことだろう。

さらに感心した点がある。それは「JUNO」が平均月1回発行されていることである。私も県博の開館当初、「博物館ニュース」を担当していたが、発行回数が少ないためにどうしても事後報告が多くなり、「ニュース」より「たより」がふさわしい内容となりがちになった。それでは広報誌としての魅力は半減する。だが、「JUNO」は創刊以来、ニュース性を堅持している点がすばらしい。今後も維持していただきたいと願っている。

実は創刊号の前に「創刊準備号」が3号発行されている。その1号で、友の会には博物館におけるもう一つの運営体・経営体としての活躍が期待される、と私は書いている。これまでの友の会の事業実績を見れば、その役割は十分果たしてきていると評価できよう。また、発足当初に友の会の会員数の目標はと問われて、3000人と答えたような気がする。突拍子もない数字かもしれないが、友の会は博物館のサポーターであると考えていたので、その数字をいったと記憶している。

それには理由があつた。博物館施設を8館から4館に再編するにあたり、各館で地元説明会が開催された。しかし、出席者はほとんどなく、再編に反対する意見もわずかであった。地元の人たちは博物館にまったく関心をもっていなかったのである。ショックだった。その責任は当然博物館側にあるのだが、県立館ということで地元との関係を重視していなかったためかも知れない。その時、博物館はまず身近な人に支持されない限り明日はないと思った。再編は県財政だけが理由ではなく、地元の方々・県民に支持されていなかったことも大きな要因だったのだと理解した。この点を博物館関係者は忘れてはならない、と今でも思っている。

ところで、博物館の評価は入館者数が大きな要素となるが、友の会の会員数は博物館の魅力指数に加えていいだろう。館に魅力がなくなり失望すれば、会員数の減少が予想されるからである。もう一つの運営体・経営体そしてサポーターである友の会が、今後も博物館と協力して館の魅力を高めてくれることを期待している。

祝 JUNO 発刊 100号

館長 牧 恒 男

博物館友の会の皆様、JUNO発刊100号誠におめでとうございます。

私は、昨年4月に館長に就任いたしました後、JUNOの92号から参加させていただいております。記念の100号に寄稿させていただけることを大変名誉なことだと感謝申し上げます。

さて、歴史と民俗の博物館は、皆様ご案内のとおり、県立博物館施設再編整備計画により、平成18年4月に旧埼玉県立博物館と旧埼玉県立民俗文化センターが統合され、新たに設置されたものです。再編に当たっては、それまで県では、地域の特性を活かした博物館施設が設置されてきたものの、建物の経年劣化、入館者の減少あるいは厳しい財政事情から施設設備の立ち遅れ、事業予算の減少、さらには市町村での博物館施設の設置促進などといった博物館を取り巻く環境の変化に対応しなければならなかった事情がありました。そこで、8館あった博物館施設を、分野ごとに再編し、4館にする計画ができあがりました。当館は、人文系総合博物館としての役割を担うことになったのです。

その時に、課題だったのが、博物館事業の運営の在り方でした。館の職員だけでは事業運営に限界があります。来館者に、高い満足度を得てまた行きたいと思ってもらえるためには、ボランティアの協力が課題解決策であり、欠くべからざるものでありました。

しかし、事業運営に際しては、ボランティアだけでは十分ではありませんでした。そこで、当時の県立博物館の「博物館フレンド」を発展させ、新規博物館のスタートに合わせて「埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会」が発足されました。そして、「JUNO」もその年の10月に第1号が発刊されました。ここに至るまでの準備に、宮川会長さんをはじめ会員各位の尽力の大きさに改めて敬意を表したいと思います。

その後、今日に至るまでの「友の会」の発展や「JUNO」の充実ぶりは、会員の皆様ご存じのとおりです。

館長室の入口の前に、館の印刷機があります。毎月10日になると友の会の皆様が「JUNO」を印刷されています。印刷の音がすると、「あっ、今日は10日だ」と反射的にわかるようになってきたところですが、原稿依頼から、紙面構成、印刷、発送と毎月行っていくのは大変なことだと思います。しかし、JUNOは100号に及ぶ歴史を作ってくれました。この歴史の重みが、毎月発行の原動力となっているものと思います。

館としても、その時々話題や展示解説など、JUNOの紙面をお借りしながら、進めていきたいと思っております。

会員の皆様には、今回の100号をひとつの節目として、益々のご発展を祈念いたしますとともに、これからも館事業へのご協力をお願い申し上げます。「JUNO」100号発刊へのお祝いとさせていただきます。

会報「JUNO」に期待すること

友の会理事 筑井信明

友の会の会員数はすでに500人を超え、生涯学習の広まりもあって、今後も増えていくことが予想されます。その中で会報『JUNO』の果たす役割はとて大きなものがあります。100号を迎えたことをひとつの契機として、会報のこれからの在り方を考えてみたいと思います。

現在の会報は①関係者・会員の巻頭言②主催する講演会・見学会などの諸事業の予定や募集案内③活動や人事、会計の報告——が内容の中心になっています。当会の場合にはこれを毎月郵送しているということも特長です。この利点をいかして、博物館や関連団体の発行するお知らせなどを同封することによって、幅広い情報のタイムリーな提供が可能になっています。

重要な「毎月発行」はボランティアの努力で維持されています

会員の皆さんに知っていただきたいのですが、この規模の民間団体で、こうした情報の発送を、それも毎月欠かさず定期的に行っている例はあまりないということです。年会費2000円を基本収入とする会の予算は決して多くありません。そのなかでこれが可能になっているのは、宮川会長をはじめとする理事・サポーターが早朝から博物館に来て、この会報の企画・製作はもちろん、印刷、折り込み、リスト作成、封入・発送までのすべての作業を自分たちの手で行っているからなのです。

現在の会員500名以上といますが、実際の講演会や見学会などの行事に定期的に参加している方は全体の3割くらいではないでしょうか。かなり多くの方は、「機会があれば参加したい」と思いながらもなかなかそうもいかず、それでも、博物館の応援ができ、郷土の文化活動にかかわっているという意識で友の会の会員になっていただいているものと推測しています。こうした会員と会を結ぶ唯一のきずなが「会報」なのですから、会員が増えるにつれて、会報の毎月発行を維持していくことはますます大切になります。

会での会員の協力（総合力）でよりよい会報を

一方、見学会などで、「会の活動の全体像や運営の仕組みがよくわからない」という声をきくことがあります。イベント予定は当然ですが、実施した事業の内容や役員らの活動、会員の意見なども載せた会報を発行することは、そのためのひとつの解決方法です。

とはいえ、実際にこれを継続して行っていくには大変な努力が必要です。そのためには、ひとりの力ではなく、役割分担を基本とする組織力が求められます。高齢化していく日本社会のなかで、当会のような文化NPOも例外ではありません。個人の力には限界があり、はやり言葉でいえばサステイナブル（持続可能）な組織を維持していくために会員みんなが協力しあうことが必要になっていると考えます。友の会は、全員が参加者なのです。

友の会ニュース「JUNO」のポリシー

会長 宮川 進

- ☆会員皆さまのご支援により、第100号を迎えさせていただきましたことに厚くお礼を申し上げます。この機会に、「JUNO」のポリシーなどについて、お話をさせていただきます。
- ☆なぜ、「JUNO」という名前になったのか？平成18年4月に友の会が産声をあげて、会報を作らねば～ということとなり、まず、会報創刊準備号を7月1日に発行しました。その号で、「名前をつけていただくよう」、ご投稿をお願いしました。7月31日を締切とし、8月の理事会で「JUNO」とすることを決定、10月10日に、その名で第1号を創刊したものです。博物館所在地の地域の名「寿能」からとらせていただきました。「JUNO」とはローマ神話でジュピターの妻で女性の守護神であり、気品の高い美人のことをいう～ことも命名の理由です。
- ☆ポリシーとしてつらぬいてきたのは、こういう会報では、よく「事業」などの後追い報告になってしまうことがあります。そうではなくて、友の会がこれから何をするかを会員の皆さまにお伝えすることを本分としようとしたことです。最近、友の会・倶楽部活動の報告では後追いの記事を掲載していますが、まだ、成長過程の「倶楽部」が何をしているのかということをお伝えすることは必要と考え、あえて、多少、ポリシーとは反したことをしております。
- ☆「JUNO」の1ページは、まさに「会報」の顔です。この面は博物館の方と会員の方と半々にご登場いただく～と隔月交代、1年間で6回ずつとバランスをとらせていただいています。博物館の、特に学芸ご担当の方には、専門分野についてのお話をさせていただきたい、そして、会員の方には自己紹介をかねて、歴史・民俗を好きになられたキッカケなどを教えていただき、親睦を深めたい～というのがネライです。
- ☆体裁としては、白黒の簡易印刷を続けています。他の博物館友の会の会報はほとんどすべてが、上質の紙にカラー印刷という体裁のようですが、「見た目にはキレイなものよりは内容で勝負」と考えています。カラー印刷にすれば当然コスト高になりますし、毎月発行というスピード性も落ちるのではないか～ということもあります。
- ☆友の会創立後、ずっと毎月発行を続けています。県内あちこちにおられる会員の方、特に遠隔地の会員の方と友の会をつなぐ手段は会報しかないといっても過言ではないでしょう。そのつながりを大切なものとして、これからも、このページは維持したいと思っています。毎月10日に発行することを守るのは、大変ムツカシイことです。10日の朝に印刷原稿を持って博物館にかけつけることは毎度のことです～ケガをして、博物館へ行けないときに、近くの理事さんに「せんげん台」の駅改札で原稿をお渡し、博物館へ行っていただいたことも一度ありました。
- グータラで、小学校の時、学級新聞を作ることをまかされ、1年に1回しか作れなかったときのことが思い出されます。いまは発送の日に、そのために集まっていただく方が多数おられ、そういう方々に発行延期を連絡していただくのは大変だろうし、皆さまのスケジュールを変えていただくことも申し訳ないしなあ～というのを、こころの支えとし、ハリとして、何とか、頑張らせていただいています。 <時には校正していただく時間がなくて間違いのまま発行してしまっていることをお詫ください>

JUNO から読む「友の会」の曙

- ◎18年4月 友の会発足
- 4月 初めての記念講演会「古墳が初めて造られたころ」 講師・当館・高橋一夫氏
- 5月 2回目の記念講演会「東国最古・謎の寺谷廃寺の誕生」 //
- ◎ 6月 初めてのイベント 特別解説会「学芸員の眼で見る博物館」 講師・当館・鈴木秀雄氏
- ◎ 7月 創刊準備第1号発行
- 7~8月 博物館主催のミュージアム・グッズ・フェアに友の会として協力
- ◎ 8月 初めての見学会「嵐山・史跡の博物館での最新出土品展」・菅谷館跡・大蔵館跡
- ◎ 9月 初めての講演会「仏像・その見方、楽しみ方」 講師・当館・西口由子氏
- ◎ 10月 初めての外部講師講演会「今に伝わる古流居合のわざとところ」
講師・上尾市教育委員会・小宮山克巳氏
- ◎ 10月 「JUNO」創刊号発行
- 10月 友の会役員・群馬県立歴史博物館友の会訪問
- ◎ 11月 初めての学会担当者とお茶の会「私と民俗学」 講師・当館・斉藤修平氏
- ◎ 12月 2回目の特別解説会「博物館のく民俗展示室>知ってる？見方知ってる？」
講師・当館・飯塚好氏
- ◎19年1月 初めてのバス見学会「埼玉の前方後方墳を全部見る」 講師・当館・小久保徹氏
- ◎ 2月 3回目の特別解説会「古文書解読の楽しみ」 講師・当館・岸清俊氏
- ◎ 3月 2回目の見学会「早春の古代遺跡ウォーク」 講師・当館・水村孝行氏

JUNO から読む「友の会」の「初めて」

- 19年4月 初めての邪馬台国シリーズ（講演会）「卑弥呼の時代と東国の古墳」
講師・当館・高橋一夫氏
- 19年5月 初めての通常総会
- 5月 初めて関西から講師をお招きした講演会「最新！邪馬台国位置論」
講師・朝日新聞元編集委員・高橋徹氏
- 6月 初めての外部講師による見学会「宮大工さんと見る埼玉の古建築」
講師・大森建築設計事務所・大森健司氏
- 10月 初めての風土記の丘をめぐる見学会シリーズ「しもつけ風土記の丘を訪ねる」
講師・当館・宮崎朝雄氏
- 10月 初めての「古文書初歩講座」（3回シリーズ）実施 講師・川島町史調査員・佐藤啓子氏

来年度、会員ご継続のお願い

来年度の会費お振込のための振替用紙を同封させていただきました。ぜひ会員継続のお手続きのほど、よろしくごお願い申し上げます。新会員証は次号の「JUNO」に同封いたします。

友の会トピックス

◎これからのイベントスケジュール

- 1月17日(土) 日本の祭り研究クラブ 「市川市の辻切り」 お申込み受付中
- 2月22日(日) 友の会見学会 「比企部の看仏めぐり～看仏見学の初歩」 お申込み受付開始
- 2月26日(木) 友の会プレミアム講座 「東日本大震災復興活動支援について」次号にて詳細告知
- 2月27日(金) 浮世絵同好クラブ 「大江戸名所百景を歩く～亀戸方面」お申込み受付中
- 2月28日(土) 古道探索倶楽部 「鎌倉街道を訪ねて～栗橋宿と関所跡」お申込み受付中
- 3月 博物館企画展「氷川神社と大宮公園」にちなんでの見学会を計画中

◎同封の「板碑」講演会のチラシについて

参加費＝当会会員は会員証提示により、一般観覧料を差引いた金額でご参加できます。(申込要)

古道探索倶楽部	
第8回鎌倉街道を訪ねて「栗橋宿と関所跡」	
	2月28日(土) 10時～15時(予定)
集合	JR東北線・東武日光線 栗橋駅東口
コース	八坂神社→栗橋関所跡→顕正寺→利根川の堤防→焙烙地蔵→浄信寺→深廣寺→静御前の墓
参加費	資料代等300円
その他	少雨決行(悪天候時には、連絡します) 歩行距離は約8kmで、史跡巡りをいれると約9kmです。 歩きやすい服装・靴でご参加ください。 昼食はあらかじめ用意してください。 保険に加入しております。 体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
問合わせ先	犬走(いぬばしり) 電話 048-756-5634
参加申し込み	2月13日(金)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

『大江戸名所百景を歩く』(第5回 亀戸方面)

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 浮世絵同好クラブ・映像写真クラブ

『大江戸名所百景を歩く』第5回は亀戸周辺です。ゴッホが模写した有名な「亀戸梅屋敷」の舞台などを散策。亀戸水神宮めぐり、幾多の洪水が襲った隅田川沿いの歴史も見学したいと思います。最後は下町の運河をさかのぼりスカイツリーまで歩きます。

- ・第65景 亀戸天神境内
- ・第32景 柳しま
- ・第30景 亀戸梅屋敷
- ・第67景 逆井のわたし

<記>

日時：2015(平成27)年2月27日(金) 小雨なら決行

集合：JR亀戸駅(総武線) 北口 改札出口 午前10時
(改札を出たところの「友の会の旗」が目印です)

主催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 浮世絵同好クラブ・映像写真クラブ

内容：以下のコースを順番に散策(15時解散予定。途中暫時休憩)

JR亀戸～逆井の渡し跡～亀戸水神宮～亀戸天神～梅屋敷跡～柳島～東京スカイツリー駅

申込：(以下のいずれかで事前申込をお願いします)

①FAX：048-470-2758 ②Eメール：pu8n-tki@asahi-net.or.jp

③「友の会ホームページ」の「申込フォーム」より送信

氏名・会員番号・連絡先電話などを明記 問合：090-1990-4807(つくい) (資料代：200円程度)

【下見】2015/01/30(金) JR亀戸駅 北口に10時30分集合(参加連絡をお願いします)

鎌倉街道中道を訪ねて(栗橋から)

友の会・古道探索倶楽部の見学会、次回は 2/28 (土) に開催

第 8 回鎌倉街道を訪ねては「栗橋宿と関所跡」を 2 月 28 日 (土) に予定しています。JR 東北線・東武日光線の栗橋駅東口に 10 時集合。コースは「八坂神社→栗橋関所跡→顕正寺→利根川の堤防→焙烙地蔵→浄信寺→深廣寺→静御前の墓→解散」になります。詳細は機関誌「JUNO」の今月号をご覧ください。その後、第 9 回は 4 月 4 日 (土) に「幸手宿と権現堂」を予定しております。(犬走)

第 3 回、第 4 回の「浮世絵を歩く」を開催

友の会・浮世絵同好クラブ・映像写真クラブ 10 月、12 月に開催。次回は 2/27 (金)



■日本橋・京橋方面

第 4 回は、いよいよ江戸の中心・日本橋から京橋方面です。江戸というのは江戸城近辺に居住した武士とその周辺の町人の街でその中心はいうまでもなく日本橋。広重の「名所江戸百景」でも日本橋周辺には多くの場所が取り上げられています。今回はその中を巡る見学会。集合場所である神田駅には 25 名が集まりました。最初の目的地は三越本店と三井本館の間の大通り。今では当然富士は見えませんが、整然とした並木の大通りに江戸の美学を感じます。

日本橋に到着。かつての魚河岸付近を一望できる場所に上がって一同感慨にひたります。日本橋 1 丁目から京橋へ。その後、日本橋に沿って兜神社、その先の「鎧の渡し」も名作の舞台です。ここから蛸殻町を経て、人形町へ。最後

に、江戸通りを渡って小伝馬町の十思公園の小伝馬町牢屋敷跡で解散しました。

■芝・虎ノ門方面

第 3 回は、虎の門ヒルズや環状 2 号線が開通して大きく変貌している港区虎ノ門から芝方面に向かいました。新橋駅に集合した一行 24 名は外堀通りに出て、虎の門交差点へ。溜池から外堀に流れ出る滝が江戸の名所になっていました。

愛宕神社へ。女坂、男坂と別れて登山、神社で集合、風景を眺めます。そこから、御成門を見ながら芝増上寺まで散歩です。

最後に向かったのが、増上寺の五重の塔が建っていた芝丸山古墳山。方墳部横の草地を五重塔跡地と認定して、浮世絵の構図を楽しみました。(筑井)



中山(中氷川)神社の「鎮火祭」に参加

友の会・日本の祭り研究クラブ 12 月 8 日。次回は 1/17 (土)。



毎年 12 月 8 日に行われる鎮火祭は江戸時代紀州の殿様が鷹狩の際、ご覧になったといわれるものです。この有名な行事である中山神社鎮火祭に会員 10 数名で参加、おおいに楽しみました。

中山神社は創建は 10 代崇神天皇の御代 2 年と伝えられ、天正 19 年 (1591) には徳川家康から社領 15 石の御朱印を賜った格式ある神社です。主祭神は大己貴命で別名、中氷川神社、鯨王子社。「武蔵一宮氷川神社」と「氷川女体神社」を結ぶ線上のほぼ中間に位置し、古くより関係の深い社として「中氷川神社」とも呼ばれていた中川の鎮守です。

鎮火祭は、かつて大宮氷川神社で行われていましたが、340 年程前に取りやめ、今の「大湯祭」に変わったと言われ、大宮氷川神社の古い祭祀を今に残す貴重なお祭りで、一時中断していたが、2007 年より再開されたとのこと。

焚き終わった炭火の上を素足で渡った後、「鎮火祭御祈禱ノ礼」をいただき、無病息災及び火難がないよう祈禱するもので、かなり多くの方が参加しました。

最後に、旧社殿(さいたま市指定文化財建造物)前で、岩井副会長及び斉藤副会長から貴重な絵図を参考にしながら「武蔵一宮氷川神社」及び「氷川女体神社」並びに「中氷川神社」の関係についてのおみやげ話もおまけにありました。(元木)

クラブ活動について(参加自由・連絡先は下記)

■日本の祭り研究クラブ

連絡(もとき: 090-2259-1673 qqqt9x8a9@cyber.ocn.ne.jp)

■浮世絵同好クラブ・映像写真クラブ

連絡(つくい: 090-1990-4807 pu8n-tki@asahi-net.or.jp)

■古道探索倶楽部

連絡(いぬばしり: 048-756-5634 inubashiri.toudou@cameo.plala.or.jp)

～石仏のデパート・比企丘陵～

石仏見学会！

—岩室観音堂、浄空院・十六羅漢像、成安寺・青面金剛像、息障院、羽黒神社など13か所—

●ふたり仲良く寄り添って、道行く人々を見守っている道祖神をご覧になったことがありますか？ ●庚申塔の三猿にメス猿があるのをご存知ですか？

●石仏というと「わかりづらい」と思っているあなた！今回は比企郡のバラエティに富んだ石仏を、お話を聞きながらじっくりと廻ります。

きっとあなたも石仏の魅力に引き込まれることでしょう！

ご案内は日本石仏協会埼玉支部会長・門間 勇氏です。

日 時： 2月22日（日）

集 合： 午前8時（時間厳守願います）

JR大宮駅西口・大宮ソニックビル西側

参加費： 6,000円

ご参加のお申込みは

★往復はがきに見学会名・住所・氏名・会員番号・電話番号（携帯番号）を明記、〒337-0042 さいたま市見沼区南中野 1183-10 齊藤文孝へ

★2月10日（火）までにお申し込みください。★定員45名（満員次第締切となります）

★会員限定ですが、ご家族、お友達のご参加できます。

★座席・集合場所地図などのご希望はハガキに明記願います。

★お問合せ・当日連絡先 090-4965-8275 齊藤文孝まで

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成27年2月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町 4-219

始まりは「フレンド」から……

理事 広 重 孝 子 (見沼区)

<フレンドから友の会へ〜〜>

前号で、友の会の前身の「フレンド」について、元館長さんの文に接し、懐かしく、あれから何十年…には、まだありませんが、当時の心ある館員さんたちのサービスのお茶とお菓子と雑談から始まった小さな集まりが友の会となり、縁の下の力持ちたちが手分けして仕事をやりこなす団体へと成長したことは、当時のことを知るものとして、本当に夢のようなこと。

いまの500名を越す友の会になったことは、他館の友の会のように館持ちの会とは比較にならず、「みんなの手作りの友の会」として、会員全員が自慢できることではないでしょうか。

<ロマンの世界も近づいて〜>

考古学とは何ぞやと、私の関心は、松本清張、点と線あたりのミステリーからはじまって、登呂遺跡やあちこちの遺跡のハナシや報道などを耳にして〜何か、古代のロマンがありそう？、ぐらいのことからはじまったのです。

そんな程度の知識しかなかった私が、この会に足を運んでみて、卑弥呼、邪馬台国畿内説、最近では縄文海進などと、ムツカシイ言葉の世界が、ちょっとは耳になれてきたようです。

<子や孫に伝えるのは私たち>

上野の科学博物館へボランティアとして、出かけていたこともありましたが、恐竜やアンモナイトの活動現場では、休日以外でも子どもたちが大騒ぎする賑やかさでしたが、それに比べて当館の静けさと立派な建築の空間の広さには、古代からの展示物の息づきも感じられて、まさに中高年が楽しめる場所ではないでしょうか。

以前、子どもさんを対象とした自然学習観察会に参加した折には、休日でも、部活や塾などで、小学生、中学生の参加が少なく、主催者がガッカリされていたことをみてきました。

しかし、中高年なら、講演会や見学会などで見聞きしたことは、彼や彼女が、みやげ話として家庭へ持ち帰り、子や孫たちに、折にふれて伝えてくれることもあるはずですよ。

「遊ぶ子どもの声聞けば、我が身さえこそ、ゆるがるれ」と、いきたいものです。

<そして、私たちは老いても、いつまでも「知るは愉し」なのです>

友の会トピックス

◎これからのイベントスケジュール

- 2月22日(日) 友の会見学会 「比企郡の石仏めぐり～石仏見学の初歩」 お申込み締切済
- 2月26日(木) 友の会プレミアム講座 「東日本大震災復興活動支援について」 本号にて詳細告知
- 2月27日(金) 浮世絵同好クラブ 「大江戸名所百景を歩く～亀戸方面」 お申込み受付中
- 2月28日(土) 古道探索倶楽部 「鎌倉街道を訪ねて～栗橋宿と関所跡」 お申込み受付中
- 3月22日(日) 友の会ミステリーツアー「氷川神社と大宮公園」 本号にて詳細告知

◎「板碑」講演会<前号にチラシ同封>=2月22日(日)・当館講堂=について

参加費=当会会員は会員証提示により、一般観覧料を差引いた金額でご参加できます。(申込要)

◎博物館企画展「埼玉の自由民権」 NHKBSプレミアム(2月12日(木)20時～21時で紹介！

「英雄たちの選択」番組で紹介・佐藤美弥学芸員も出演されます。

◎博物館常設展示も日々とまではゆきませんが、結構展示替えがされていますよ。お確かめください

- 1.27～4.19 常設展示第9室「埼玉の人物・斉藤与里」 ～現・加須市出身の洋画家(大正～昭和)
- 1.27～5.10 季節展示室「仏教史学者・稲村担元コレクション・古代瓦の拓本」

*27年度の会員更新をよろしくお願い申し上げます

博物館の「応援団」をお続けくださるようお願いいたします。振込み用紙をお使いください。会員証のお送りは間に合うかぎり早くの「JUNO」に同封いたします。大変申しわけありませんが、到着まで、郵便局の領収書をご保管ください。

友の会クラブのお知らせ

◎浮世絵同好クラブ

- 2月27日(金) 亀戸方面(少雨決行) 午前10時・JR亀戸駅北口改札出口集合
目印・友の会の旗。逆井の渡し跡・亀戸水神宮・亀戸天神・梅屋敷跡・柳島～スカイツリー
駅着 参加費 200円程度(資料代など) 連絡先・携帯 090-1990-4807・FAX
048-470-2758・つくい 当会ホームページの申込みフォームからでも可

◎お祭り研究クラブ

- 5月までお休みいたします。今後をご期待ください

◎古道探索クラブ

第8回鎌倉街道を訪ねて「栗橋宿と関所跡」	
	2月28日(土) 10時～15時(予定)
集合	JR東北線・東武日光線 栗橋駅東口
コース	栗橋駅→経蔵院→香取神社→利根川上流事務所→八坂神社→房川の渡し→栗橋関所跡碑→栗橋宿の町並み→静御前の墓→栗橋駅
参加費	資料代等300円
その他	少雨決行(悪天候時には、連絡します) 歩行距離は約8kmで、史跡巡りをいれると約9kmです。 歩きやすい服装・靴でご参加ください。 昼食はあらかじめ用意してください。 当日の連絡先は、広瀬正史080-3393-1146です 保険に加入しております。 体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
問い合わせ先	犬走(いぬばしり) 電話 048-756-5634
参加申し込み	2月13日(金)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して 〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道あて

東北を 掘る！

～東日本大震災復興活動支援に携わって～

2011年3月の東日本大震災の被災地では、生活復興のためにより安全な高台への住居移転や自動車道の拡幅整備など、幅広いインフラ整備が必要とされました。被災地での復興の環境を整えるために、博物館からの復興活動支援として遺跡発掘調査が急ピッチでおこなわれました。それらの発掘体験のお話を伺うことによって、文化財について一緒に考える機会をもちたいものです。

講師の伴瀬宗一さんは、日本考古学を専攻され現在は学習支援事業を担当されていますが、2012年から2014年にかけて、宮城県沿岸部、気仙沼や石巻を中心に1年半にわたる発掘調査に携わられました。従来は当地では行わなかった厳冬期の発掘も、多賀城の山王遺跡で雪の中で経験されたそうです。

講師 ばん せ そういち
伴瀬宗一氏 当館学習支援担当学芸主幹

とき 平成27年 2月26日(木)午後 1時半～3時

ところ 当館講堂

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、2月19日(木)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

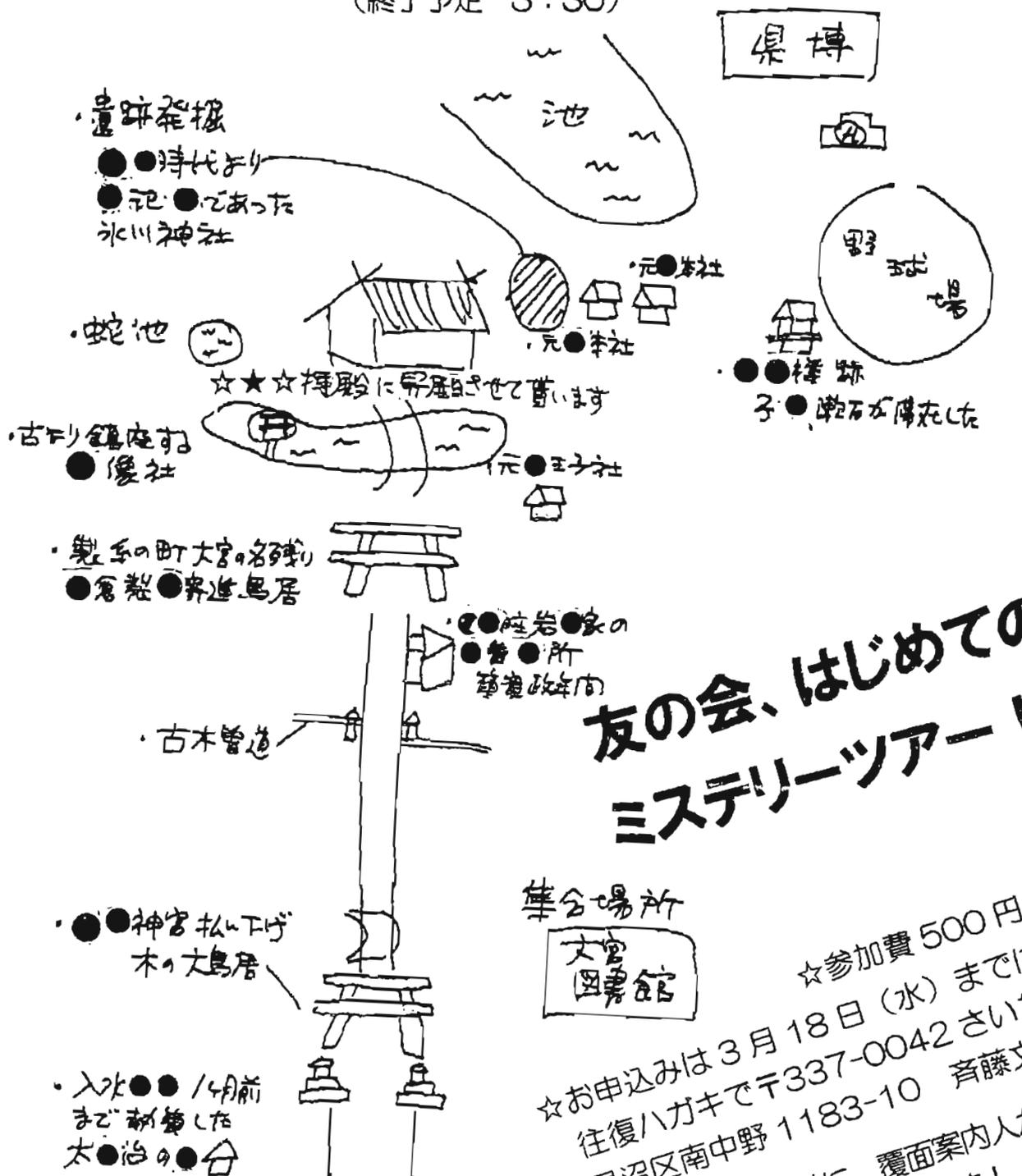
埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

友の会 見学会

氷川神社・大宮公園 ミステリー ツアー

—— 今回は氷川神社のお計いぞ 入ることのできたから
蛇池を訪ねます。どうぞ期待!! ——

3月22日(月) PM 1:30 市立大宮図書館集合
(終了予定 3:30)



県博

友の会、はじめての ミステリーツアー!

集合場所
大宮図書館

☆参加費 500円
☆お申込みは 3月18日(水)までに
往復ハガキで 〒337-0042 さいたま市
見沼区南中野 1183-10 斉藤文孝へ
桜の季節を前に、覆面案内人が
そのうんちくを語ります!

平成27年3月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219

ある作品との出会い～企画展「氷川神社と大宮公園」

展示担当主任学芸員 池田伸子

当館では3月21日から始まる企画展「氷川神社と大宮公園」の準備が大詰めを迎えています。

この企画展は大宮公園が今年開園130周年となることから企画したのですが、10年前の開園120周年の時にも大宮公園をテーマにした展示を行っているので、今回は隣接する武蔵一宮氷川神社、大宮公園と公園内の遺跡も紹介する展覧会としました。敷地面積から考えれば大変狭い範囲なのですが、扱う時代の長さは約3000年にもなる展覧会です。

展覧会の内容は他にもご紹介する機会がありますので、今回は、展覧会の準備で氷川神社の所蔵資料を調査に伺った時のこととお話したいと思います。

調査の最中、「こういうものもありますよ」と出していただいた絵巻がありました。調査予定に入っていなかったそれは、箱に「仮殿遷座祭絵巻」と書かれ、中には上下2巻の絵巻が収まっていましたが、その日はもう見る時間がありませんでした。後日改めて調査に伺い、その絵巻の一つを開いてみたところ、冒頭の詞書に続いて、はっとするほど美しい色彩が目飛び込んできました。紋付き袴や燕尾服姿の紳士、着物にショールの婦人、セーラー服姿の女学生、軍人・・・昭和初期の身なりをした人々が杉並木の参道を氷川神社へ進んでゆく姿が描かれていました。荘厳な雰囲気も表現しながらも、あたたかみのある画風。その時思ったのは「やった！出会った！」。こうした調査をしていると、時にすばらしい資料や作品との出会いがあり、それは学芸員をしていて最も幸福な瞬間といえるものですが、すぐに私はこの絵巻を企画展で紹介したいと思ったのです。

氷川神社の絵巻といえば、明治元年の明治天皇の行幸を描いた県指定文化財「氷川神社行幸絵巻」がよく知られており、今回の企画展でもメインとなる作品ですが、この「仮殿遷座祭絵巻」の存在を私はまったく知りませんでした。上下巻それぞれ十数メートルもある大作です。聞いてみたところ展覧会などで公開したことはないとのこと。内容は昭和12年、現在の神殿の造営にあたり、御神体を仮殿へ遷すときの儀式を描いたものです。描いた画家は福宿光雄（1901～1970）。旧制浦和中学時代から、県立浦和高校の美術教師を長くつとめた人です。そして詞書は神道学者・宮地直一（1886～1949）が書いています。制作年代、製作者がわかり、遷座祭の記録として考証も確かなものといえます。絵巻が奉納されたのは昭和19年でした。時代の趨勢を考えれば、こうしたテーマをこれほどの熱意を持って描くこと、絵巻でこうした出来事を記録するという事は、その後の時代にはできなかつたらう、と、私にとっては、さまざまな思いをかきたてる作品ともなりました。

この作品は、上巻を前期（3/21～4/12）、下巻を後期（4/14～5/10）に展示する予定です。またとない機会ですので、ぜひ2回、展覧会に足を運んでいただいて、上下巻ともご覧いただきたいと思っています。

友の会トピックス 1

◎今後のイベントスケジュール

- 3月22日(日) 友の会見学会「氷川神社・大宮公園」ミステリーツアー 締切3月18日(水)
- 4月4日(土) 友の会古道探索倶楽部「幸手宿と権現堂」 詳細本号 締切3月20日(金)
- 4月19日(日) 友の会・博物館・共催歴史講演会 「邪馬台国と手焙形土器」
 講師：元・当館館長 高橋一夫氏 本号発表 締切4月16日(木)
 <情報を一般公開しますので、会員はお早めにお申込みください>
- 4月24日(金) 友の会浮世絵同好クラブ「御茶ノ水～新宿」詳細本号 事前申込み要
- 5月17日(日) 友の会・博物館・共催歴史講演会 「邪馬台国と東国の古墳」
 講師：東京学芸大学准教授 日高 慎氏 詳細次号・発表後申込み受付(先行申込み無効)

古道探索倶楽部	
第9回鎌倉街道を訪ねて 「幸手宿と権現堂」	
4月4日(土) 9時30分～15時(予定)	
集合	東武鉄道 日光線 幸手駅
コース	幸手駅～一色稲荷社～岸本家住宅～常光寺～満福寺～幸宮神社～雷電神社～聖福寺～正福寺～宝持寺～権現堂
参加費	資料代等300円
その他	少雨決行(悪天候時には、連絡します)
	歩行距離は約8kmで、史跡巡りをいれると約9kmです。歩きやすい服装・靴でご参加ください。
	昼食はあらかじめ用意してください。
	保険に加入しております。体調が悪くなった方は、倶楽部員まで連絡してください。
問合わせ先	犬走(いぬばしり) 電話 048-756-563
参加申し込み	3月20日(金)までに、はがきに氏名・住所・会員番号・電話番号(ご自宅・携帯とも)を明記して〒339-0058さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道

『大江戸名所百景を歩く』(第6回 御茶ノ水～新宿)

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会・浮世絵同好クラブ・映像写真クラブ

『大江戸名所百景を歩く』第6回はお茶の水から水道橋、四谷、新宿と中央線を乗り継いでの散策となります。初夏の風にたなびく「鯉のぼり」が神田川で見られるのでしょうか。最後は新宿のにぎやかな通りになります。

- ・第47景 昌平橋聖堂神田川
- ・第48景 水道橋駿河台
- ・第10景 神田明神曙之景
- ・第9景 筋違内八ツ小路
- ・第41景 市ヶ谷八幡
- ・第86景 四谷内藤新宿
- ・第50景 角筈熊野一社

<記>

日時：2015(平成27)年4月24日(金) 小雨なら決行
 集合：JR御茶の水駅(中央線) 東口 改札出口 午前10時
 (改札を出たところの「友の会の旗」が目印です)

内容：以下のコースを順番に散策(15時頃解散予定。途中暫時休憩)
 昌平橋～湯島聖堂～聖橋～神田明神～御茶の水～水道橋～飯田橋(神楽坂あたりで自由昼食予定)
 市ヶ谷～四谷・新宿方面へ

申込：(以下のいずれかで事前申込をお願いします)

①FAX：048-470-2758 ②Eメール：pu8n-tki@asahi-net.or.jp

③「友の会ホームページ」の「申込フォーム」より送信

氏名・会員番号・連絡先電話などを明記 問合せ：090-1990-4807(つくい) (資料代：200円程度)

【下見】2015/03/27(金) JR御茶の水駅 東口 改札出口10時30分集合(参加連絡をお願いします)

友の会トピックス 2

◎会員のご継続を再度、お願い申し上げます

〇3～4月、会員のご更新時期でございます。ぜひ、新年度につきまして、ご更新をくださいますよう、お願い申し上げます。新年度も、一緒に博物館の応援をいたしましょう！

2015年	埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 「日本のお祭り研究クラブ」
第12回 お祭り見学会のお知らせ(参加自由)	
《名称》	日光東照宮春季例大祭 (栃木県日光市)
《期日》	平成27年5月17日(日)10時～16時 雨天決行
《集合》	東武日光線「東武日光駅」改札出口 午前9時30分
《費用》	★交通費(電車・バス), 昼食代, 保険代50円, 拝観料等
《持物等》	★歩き易い靴及び服装・帽子・飲物・カメラ等
《申込み》	★下記の連絡先までお願い致します。
<p>★日光東照宮春季例大祭概略 (5月17日～18日の2日間)</p> <p>■5月17日(日) 春季例大祭</p> <p>(例大祭) 10:00 例大祭齋行(御本社) 11:00 徳川御宗家、奥社参拝</p> <p>●流鏝馬神事 (※天候により変更あり)</p> <p>☆流鏝馬神事はおよそ900年前、朝廷の護衛にあたった武人等によって行われていました。 鎌倉時代は源頼朝が鶴岡八幡宮の神前に奉納し、この時代盛んとなり8代将軍吉宗公が復興につとめられた。現在、日光東照宮の神事として奉納(小笠原流)されている。</p> <p>☆約220メートルの馬場の先には、弓取りとして名を馳せた徳川家康を祀る日光東照宮。 射手がこの馬場を駆け、杉の柱目板でできた約55センチの的を射抜く姿は迫力満点。</p> <p>13:00 弓矢渡し式・みそぎ行事 (五重塔前) 13:15 馬場入り (表参道) 13:30 やぶさめ神事開始 14:30 やぶさめ神事終了</p> <p>(発興祭) 15:30 官司以下神職により祭典奉仕 (御本社)</p> <p>(育成渡御) 15:45 神輿舎前にて遷霊祭 16:00 神輿3基250名で行列を整え神輿舎進発 (陽明門～表門～上新道～二荒山神社拜殿)</p> <p>■5月18日(月) 神輿渡御祭として「百物揃千人行列」鏝を中心に鏝武者など1200名余り歩く。</p>	
連絡先：元木孝 TEL：0493-54-0401 (携帯090-2259-1673)	
★次回予定7月12日(日)『久喜市提灯祭』：(久喜市)	

てあぶりがた

邪馬台国と手焙形土器

手焙形土器という不思議な土器をご存知でしょうか。のちの時代の「手あぶり」のような形をしていますが、何に使ったかは、わからない土器。出現したのは弥生時代から古墳時代にかけての謎多き時代。纏向遺跡、埼玉の鷲山古墳など全国から少量ずつ出土。それ以前にお祭りの道具として使われていた「銅鐸」に代わって出現したもののようであることを考えると、これも祭器か？ この謎多き時代に現れたとすれば、これも、古代最大のロマンにしてミステリーである「邪馬台国」と「卑弥呼」の謎を解く大きなカギになるのでは～と思われるます。

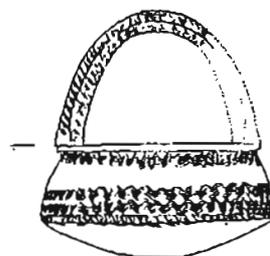
講師 高橋一夫先生

< 元・当館館長 >

日時 平成27年4月19日(日)

午後1時半～3時

場所 当館講堂 (東武野田線・大宮公園駅下車5分)



千葉県市原市長平台遺跡・周溝墓出土
手焙形土器の研究(高橋一夫著
・六一書房刊・98.12)より

ご参加無料

ご参加ご希望の方は、往復ハガキに、この講演会名・住所・氏名・電話番号・友の会会員は会員番号を明記し、返信面にも住所・氏名を記入のうえ、4月16日(木)必着で〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員(150名)を超えた場合は、お断りすることがあります。

当日は、友の会からお送りした返信ハガキをご持参ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会